

# ●新しい大学体育●

## 新しい大学体育への模索

神奈川大学

山下 昭子

はじめに

平成三年七月一日から施行された大学設置基準の改正(省令)で、大学における保健体育の実技・講義の各二単位は、一般体育・外国語とともに必修科目の枠が取り外された。これをうけて、各大学は①必修科目として残す②選択科目に変更する③廃止する、この三つのうちの一つを選ぶために検討を重ね、「すでに一つの方向性を打ち出した」、あるいは「現在もおお審議検討中」と様々であるがいずれにしてもこれまでとは質的に異なった内容でまとめられそうである。

そこで、こういった文部省の意向に対して研究教育の現場サイドからの考え方をまとめ

この問題をポジティブな方向で考えてみたい。

### 人口問題からみた我が国の特色

厚生省人口問題研究所の推計によると、我が国は二〇二〇年には〇歳から十四歳までの若年人口比と六十五歳以上の老年人口比が逆転し、六十五歳以上の人口が全体の二五%を占めるといわれている。この推計はさらに早まる傾向にあるが、いずれにしても二十一世紀には、我が国は世界一の高齢国になることはまちがいないさそうである。このことから、大学体育の内容を考えるとき、この問題を切り離して考えることはできない。併せて十八歳人口の減少、受験戦争による子供たち

の体力の弱体化という一つの社会的現象があり、これを包含したみかたが重要であると考える。

### 大学生の体力の現状

昭和六十二年九月に発行された、(社)全国大学体育連合の体力テスト委員会がまとめた「大学における体力測定の調査結果報告」から、大学生(十八歳~二十一歳)の体力診断テストを要約してその実態をみてみたい(表1-1~表2-2)。

これらの結果から、大学生の体力の特徴は、三、四年生になるにつれてアンバランスな発達をしており、平均的に体力の低下がみられることである。この調査結果からいえることは、現在の文部省の設置基準としている保健体育の単位は、むしろ増やす方向で考えるのが学生の健康管理と体力の維持増進につながる道ではないだろうか。

即ち、その目的は我が国が高齢化社会を迎えるにあたり、健康管理に主眼をおいた体力の維持増進にあり、生涯体育・スポーツの必要性が重要であることを、ここでは強調しておきたい。

&lt;男子&gt;

表1-1

項目	系	学年	年齢	反復横とび(点)			垂直とび(cm)			背筋力(kg)			握力(kg)		
				N	M	S.D.	N	M	S.D.	N	M	S.D.	N	M	S.D.
体力診断テスト	文系	1	18	3027	46.44	5.23	2867	61.50	7.98	3017	136.33	24.88	3002	45.92	6.28
			19	1829	46.02	4.80	1794	59.92	7.93	1823	131.19	23.90	1815	44.57	6.04
			20	191	43.26	5.45	189	56.23	7.45	188	127.07	25.57	187	43.38	5.86
		2	19	1157	47.59	4.78	1033	62.90	7.32	1169	144.71	24.64	1133	48.14	6.24
	理系	1	18	2840	46.75	4.58	3312	62.28	7.39	3312	136.72	23.52	2616	46.63	5.86
			19	2320	46.14	4.80	2561	61.69	7.46	2560	131.37	22.32	2289	46.15	5.52
			20	1771	47.04	4.56	2127	61.83	7.04	2357	137.46	22.78	1748	48.41	7.21
		2	19	2836	47.39	4.41	3082	61.99	7.05	3094	140.24	23.00	2709	48.11	5.82
	医歯薬系	1	18	188	47.17	4.45	192	62.09	7.97	190	135.79	22.69	191	44.83	6.43
			19	162	46.48	4.17	162	62.22	8.13	162	139.20	22.00	165	46.26	6.28
	教育系	1	18	135	47.21	4.73	135	61.01	8.04	137	145.73	27.35	51	46.56	5.86
			19	118	50.40	3.97	124	59.50	6.63	127	180.70	25.26	127	49.20	6.39
	体育系	2	20	275	51.91	3.84	292	60.71	7.07	280	168.36	26.13	284	52.01	6.37
			21	160	52.40	3.32	163	60.00	6.76	159	179.10	29.41	163	49.90	6.29
			22	175	52.70	3.55	177	60.10	6.58	181	173.60	27.49	185	50.50	6.26
		4	22	175	52.70	3.55	177	60.10	6.58	181	173.60	27.49	185	50.50	6.26
	短大	1	18	167	42.25	5.29	168	60.68	7.74	172	152.33	25.08	170	43.71	5.92

表1-2

項目	系	学年	年齢	伏臥上体そらし(cm)			立位体前屈(cm)			踏み台昇降運動(指数)		
				N	M	S.D.	N	M	S.D.	N	M	S.D.
体力診断テスト	文系	1	18	2580	56.02	8.65	2908	12.58	10.13	2761	60.59	11.22
			19	1824	55.20	8.29	1820	12.12	7.36	1412	57.98	11.42
			20	189	54.22	9.23	185	9.93	8.22	170	51.97	8.96
		2	19	853	57.12	8.19	1167	13.09	6.36	1032	61.25	10.25
	理系	1	18	2253	56.37	7.80						
			19	2097	56.64	8.29	2560	13.48	6.25	2045	56.84	9.97
			20	2443	57.57	8.05	3077	15.33	5.94	2939	59.11	10.46
		2	19	1582	57.89	8.29	2130	13.68	5.91	1572	58.62	9.51
	医歯薬系	1	18	188	55.06	8.15	192	13.45	5.75	180	57.44	9.85
			19	163	54.85	8.01	160	13.34	6.07	128	58.20	9.59
	教育系	1	18	52	60.31	9.47	135	15.77	6.15	135	58.31	11.30
			19	128	60.70	6.33	127	14.10	5.74	127	75.30	13.01
	体育系	2	20	265	56.21	7.64	277	15.85	6.41	269	71.29	12.02
			21	166	59.20	8.74	163	14.60	7.68	161	71.20	13.86
			22	182	55.00	7.92	185	15.90	6.46	179	65.40	11.32
		4	22	182	55.00	7.92	185	15.90	6.46	179	65.40	11.32
	短大	1	18	123	52.03	8.73	121	11.80	6.94	169	63.57	12.14

項目	系	学年	年齢	反復横とび(点)			垂直とび(cm)			背筋力(kg)			握力(kg)			
				N	M	S.D.	N	M	S.D.	N	M	S.D.	N	M	S.D.	
体力 診断 テスト	文系	1	18	3948	40.47	3.98	4020	45.18	6.90	4022	85.51	17.55	3532	28.60	4.61	
			19	822	39.27	4.19	648	40.56	6.18	774	79.15	20.85	695	27.57	5.34	
		2	19	1643	41.05	4.20	974	42.63	5.83	1561	86.63	17.81	1044	28.95	4.27	
			20	188	39.61	3.64				185	86.41	16.40				
	理系	1	18	92	38.98	3.89	82	46.13	7.14	82	82.80	19.44	82	30.56	5.26	
			19	190	37.12	3.49	190	45.69	6.38	191	74.69	15.17	191	28.60	5.75	
	医歯薬系	1	18	322	40.59	3.88	321	43.47	5.89	327	82.25	17.47	328	27.32	4.26	
			2	19	68	40.61	3.64	272	44.22	5.04			277	30.89	5.95	
	教育系	1	18	233	40.36	3.75	231	43.50	6.08	230	94.09	16.58	99	29.83	4.18	
			1	18	59	44.50	3.60	59	53.40	4.10	60	110.20	15.10	59	33.40	3.90
	短大	文系	1	18	3888	40.33	3.36	3890	42.50	5.72	3890	84.76	16.37	3203	38.87	4.11
				19	758	41.47	3.39	764	43.00	5.16	763	86.31	17.20	769	29.25	3.93
		理系	2	19	416	41.27	3.26	416	44.54	5.48	416	93.87	20.66	417	29.77	4.04
				1	18	269	39.87	4.47	271	44.56	5.82	270	88.93	17.44	173	27.42
		教育系	1	18	1052	41.03	3.68	1062	45.05	6.13	1063	83.74	15.39	1063	29.97	4.25
				2	19	356	42.68	2.90	357	45.84	5.30	356	82.58	14.63	358	29.53
		体育系	1	18	104	44.94	2.61	104	52.10	5.26	104	100.38	16.34	105	33.76	4.87
				2	19	111	44.80	3.30	111	51.10	5.10	112	101.50	16.90	112	32.60

表2-2

項目	系	学年	年齢	伏臥上体そらし (cm)			立位体前屈 (cm)			踏み台昇降運動 (指数)			
				N	M	S.D.	N	M	S.D.	N	M	S.D.	
体力 診断 テスト	文系	1	18	3946	56.22	7.40	3903	16.62	6.43	3487	58.37	9.59	
			19	771	54.67	8.68	761	15.36	8.27	759	54.96	10.07	
		2	19	1561	56.05	7.15	1558	16.50	6.08	1536	58.82	9.66	
			20	179	54.97	7.41	189	12.36	6.31	190	57.03	8.70	
	理系	1	18	82	56.15	6.41	81	16.39	4.99	82	55.73	7.62	
			19	191	49.43	6.54	191	15.30	5.96	196	55.41	8.28	
	医歯薬系	1	18	323	57.89	6.87	324	16.04	5.56	322	57.83	9.77	
			2	19	270	56.80	7.14	270	15.30	4.99	265	59.27	9.73
	教育系	1	18	99	58.02	6.12	231	17.10	5.25	229	58.98	11.14	
			体育系	1	18	55	60.00	5.80	60	18.40	5.60	59	79.40
	短大	文系			1	18	3883	57.15	7.45	3992	17.05	5.32	3872
			19	763		58.19	6.68	764	16.98	5.16	758	58.68	9.30
		理系	2	19	416	57.44	6.65	415	13.60	5.13	416	61.24	9.53
				1	18	270	57.16	7.43	173	16.79	4.53	263	54.52
		教育系	1		18	1063	56.19	6.86	1059	16.54	5.42	888	57.34
				2	19	357	58.58	7.01	359	17.18	5.20	173	58.34
		体育系	1		18	106	59.09	7.02	105	19.99	5.01	105	72.17
				2	19	112	59.70	5.90	112	18.70	5.30	111	74.80

## 生涯スポーツとしての大学体育

最近の新聞の見出しに、「余暇は世につれ  
大学体育も―文部省の期待うけ、生涯スポー  
ツへ続々と独自路線―」と題して、大学体育  
のカリキュラムの内容がいくつか紹介されて  
いる。この内容の主たる点は、大学体育の内  
容を生涯スポーツとして位置づけ、女子学生  
に人気の高いジャズダンス、テニス、ゴル  
フ、また課外集中講座として、スキー、マリ  
ンスポーツなど、これまでのフルコース授業  
から、アラカルト授業に変わっているものが多  
いとしている。

これからの大学にみられるカリキュラムの  
内容は、時代の反映による新しい試みであ  
り、ユニークな考え方であると思われるが、  
一方においては、フルコースの内容を基本と  
してのアラカルト授業もまた大切ではないだ  
ろうか。何故ならば、現在の子供たちは、小  
・中・高と塾通いの受験戦争という生活様式  
の中で、基礎体力を十分養わないまま大学で  
の生活を始めるのが大部分と思うからであ  
る。

これまでの大学体育の内容をふり返ってみ

ると、一般体育の授業も含めて、実技を中心  
とした、即ちスポーツ技術の伝達がその主流  
になっていたのではないだろうか。

前述の我が国の高齢化現象という社会的背  
景において筆者は生涯健康教育としてのラ  
イフスタイルに関わる内容で、社会人（主に  
人事・労務担当者）を対象にダンス教育の理  
論と実践を担当しているが、この社会的ニ  
ーズの現実からみると、現在の大学における保  
健体育のカリキュラムの内容に欠如する何か  
があるのではないだろうか。実技中心のカリ  
キュラムの内容を否定するものではないが、  
スポーツを実施するに際しての計画・方法な  
らびに健康管理からみたその効果、さらには  
加齢現象を考慮したそれぞれの年代に適した  
スポーツの種類、また集団指導の方法論など  
理論と実践の両面からの教育が重要であり、  
社会のニーズもそこにあると考えるからであ  
る。この点は専門教育のみならず、一般教育  
における体育カリキュラムについても同様で  
あろう。

### まとめ

新しい大学体育への脱皮を目指し、模索を

繰り返しながら私見を述べてきたが、これら  
を要約し、併せて自らの願望をまとめてみた  
い。

これからの大学体育の内容は、文部省の設  
置基準の大幅な緩和政策で、各大学は種々の  
試みを企画立案し実施すると思われるが、生  
涯健康教育としての体育学の思想とポリシー  
さらには、理論と実践を両立させたカリキュ  
ラム体系の内容にしていくことが切望され  
る。そのためには、大学四年間をとおして、  
学生たちがいつでも体育・スポーツと触れあ  
うことのできるシステム、たとえば一般体育  
においても、必修とバラレルでそれぞれの専  
門（ダンス、体操、ゴルフ……）分野別の小  
人数制教育が可能な体育ゼミといったものの  
新設が要望されよう。

